

Qualys Cloud Platform (VM, PC) 10.x

リリースノート

バージョン 10.23

2023 年 7 月 14 日

Qualys クラウドプラットフォーム (VM、PC) の新リリースでは、Vulnerability Management と Policy Compliance が改善されています。

Qualys Cloud Platform

ユーザー固有のセッションタイムアウト
管理者ユーザーに別の管理者ユーザーの作成を許可する
検証の強化: ユーザーの作成または編集中の一意の電子メール ID

Qualys Vulnerability Management (VM)

過去 90 日間にスキャンされた一意のホストを表示する
NetBIOS/DNS/FQDN/CloudInstance を使用したスキャンの検索
アクティブ OT スキャンのサポート
スキャン・レポートの Asset Risk Score (ARS) が TruRisk スコアに名前変更
サブスクリプションのアクティブ化に関連する機能強化

Qualys Policy Compliance (PC/SCAP/SCA)

UDC の新テクノロジーのサポート
新しい認証テクノロジーのサポート
Red Hat OpenShift Container Platform 4.x on CoreOS Agent のサポート

API の変更

このリリースでの API の変更については、[クラウド プラットフォーム 10.23 API リリース ノート](#)を参照してください。

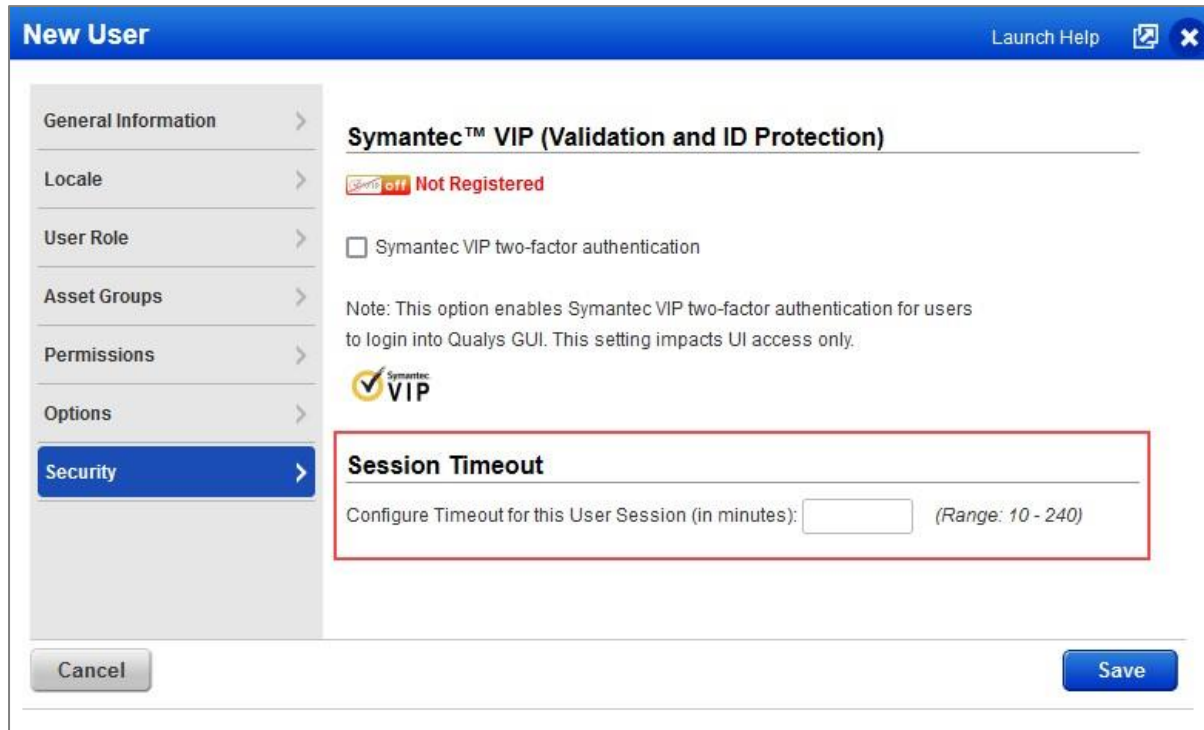
Qualys 10.23 では、さらに多くの改善と更新が実施されました。 [詳細はこちらを御覧ください。](#)

新着情報

ユーザー固有のセッションタイムアウト

Manager ユーザーは、個々のユーザーのセッションタイムアウトを定義できるようになり、ユーザーアクセスをよりきめ細かく制御できるようになりました。ユーザーを作成または編集するときは、**Security** セクションに移動し、その特定のユーザーに必要なセッション タイムアウトを設定します。

このユーザー固有のタイムアウトは、ロールベースのタイムアウトよりも優先されることに注意してください。



The screenshot shows the 'New User' configuration window with the 'Security' section selected. The 'Session Timeout' field is highlighted with a red box. The field is labeled 'Configure Timeout for this User Session (in minutes):' and has a text input box. To the right of the input box, the text '(Range: 10 - 240)' is displayed. The 'Save' button is visible at the bottom right of the window.

管理者ユーザーに別の管理者ユーザーの作成を許可する

このリリースから、管理者ユーザーは別の管理者ユーザーを作成できます。新しいユーザーに割り当てられる電子メール ID は、既存の管理者ユーザーに現在関連付けられている電子メール ID とは異なる必要があります。

この機能はデフォルトでは有効になっていません。Qualys サポートまたはテクニカル アカウント マネージャーに連絡して、サブスクリプションでこの機能をアクティブ化してください。

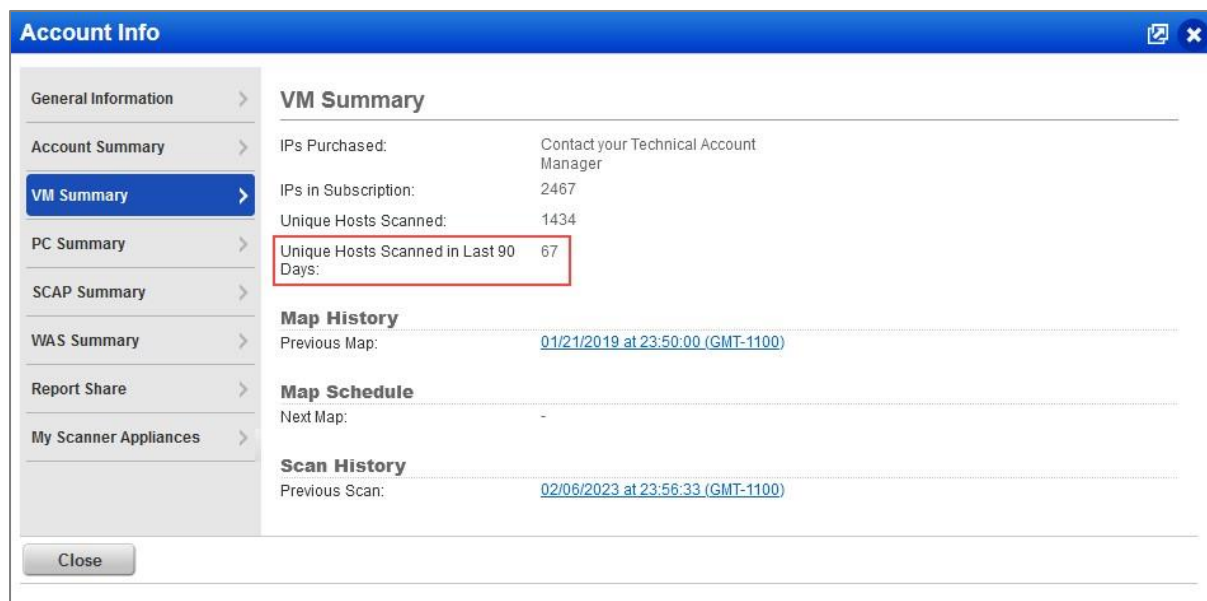
検証の強化: ユーザーの作成または編集中の一意的電子メール ID

ユーザーの作成または編集中に、ユーザーごとに一意の電子メール ID が使用されるように、新しい検証チェックが追加されました。指定した電子メール ID が既に別のユーザーに関連付けられている場合は、別の電子メール ID を指定するように求めるエラー メッセージが表示されます。

この機能はデフォルトでは有効になっていません。Qualys サポートまたはテクニカル アカウント マネージャーに連絡して、サブスクリプションでこの機能をアクティブ化してください。

過去 90 日間にスキャンされた一意のホストを表示する

過去 90 日間に脆弱性がスキャンされた一意のホストを表示できるようになりました。Help > Account Info > VM Summary に移動して、詳細を表示します。



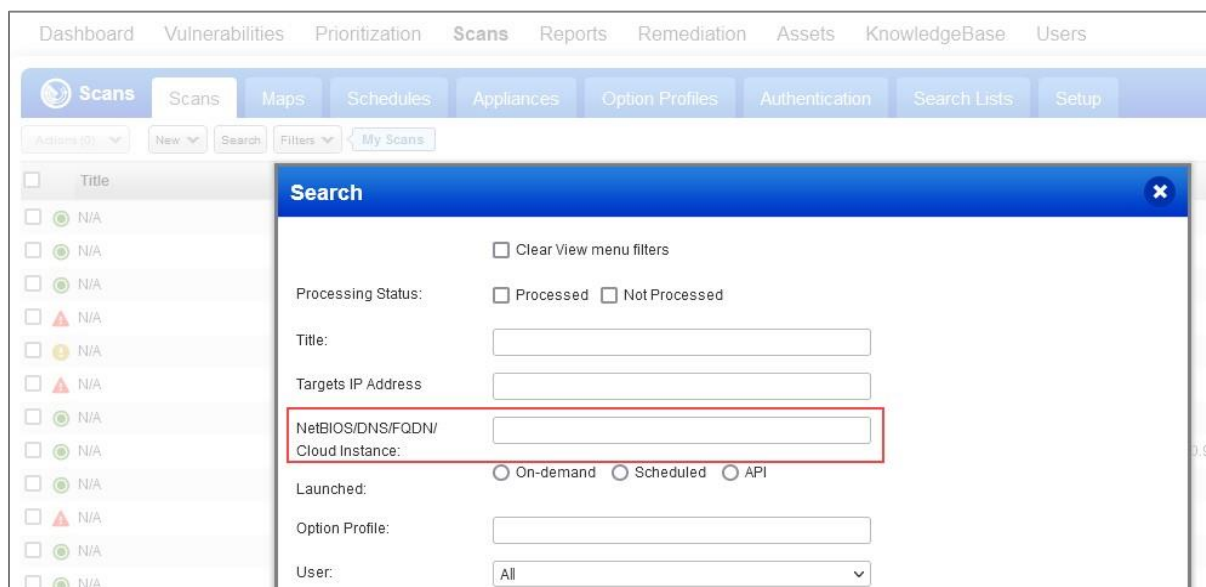
The screenshot shows a web interface titled "Account Info" with a sidebar on the left containing navigation links: General Information, Account Summary, VM Summary (highlighted), PC Summary, SCAP Summary, WAS Summary, Report Share, and My Scanner Appliances. The main content area is titled "VM Summary" and contains the following information:

IPs Purchased:	Contact your Technical Account Manager
IPs in Subscription:	2467
Unique Hosts Scanned:	1434
Unique Hosts Scanned in Last 90 Days:	67

Below this table are sections for "Map History" (Previous Map: 01/21/2019 at 23:50:00 (GMT-1100)), "Map Schedule" (Next Map: -), and "Scan History" (Previous Scan: 02/06/2023 at 23:56:33 (GMT-1100)). A "Close" button is located at the bottom left of the window.

NetBIOS/DNS/FQDN/CloudInstance を使用したスキャンの検索

このリリースから、NetBIOS、DNS、FQDN、またはクラウド インスタンスを使用してスキャンを検索できるようになりました。以前は、IP アドレスのみを使用してスキャンを検索できました。



アクティブ OT スキャンのサポート

このリリースから、アセットグループ管理サービス (AGMS) が有効なアカウントで OT デバイススキャンがサポートされるようになりました。Qualys VMDR OT を使用して、OT デバイス スキャンを起動し、OT アセットとセキュリティ体制に関する最新のビューを取得できます。

詳細については、VM/VMDR オンライン ヘルプ: [OT デバイス スキャンの開始を参照してください](#)。

スキャン・レポートの Asset Risk Score (ARS) が TruRisk スコアに名前変更

このリリースから、スキャン・レポートおよびレポート・テンプレートの ARS(Asset Risk Score)関連フィールドの名前が変更され、ARS が TruRisk スコアに置き換えられました。

次の変更が加えられます。

1. 脆弱性レポートの ARS 列の名前が **TruRisk Score** に変更されました。
2. スキャンレポートテンプレートの Display タブにある **TruRisk Details (ARS, ACS, QDS)** オプションの名前が **TruRisk Details (TruRisk Score, ACS, QDS)**に変更されます。

重要: ARS を含む古い列は、今後数回のリリースのスキャン・レポートにおいて保持されます。ただし、これらの列は事前通知を持って、将来削除されます。

サブスクリプションのアクティブ化に関連する機能強化

サブスクリプションのアクティブ化に関する電子メール通知が改善され、ユーザーエクスペリエンスが向上しました。さらに、電子メールに含まれる OTP は、以前の有効期間がわずか 72 分であったのに対し、30 時間有効になりました。

UDC の新テクノロジーのサポート

このリリースから、UDC はスキャナとエージェントの次の新しいテクノロジーをサポートします。

Technology	Supported for Agent and Scanner	Supported only for Agent
Mac OS X 10.15, 11.x, 12.x, and 13.x	-	<ul style="list-style-type: none">• File/Directory Existence• File/Directory Permission• File Content Check• File Integrity Check• Unix Directory Search Check• File Content Check
Rocky Linux 8.x/9.x Alma Linux 8.x/9.x	<ul style="list-style-type: none">• File/Directory Existence• File/Directory Permission• File Content Check• File Integrity Check• Directory Search Check• Directory Integrity Check• Script Execution	-

新しい認証テクノロジーのサポート

このリリースから、スキャナーを使用したポリシー準拠認証スキャンで次のテクノロジーがサポートされるようになりました。

- Oracle 21c (Multitenant)
- NetApp Data ONTAP 9.x
注:NetApp Data ONTAP 9.x は、共有アクセス関連の制御でのみサポートされます。
サポートされているコントロールのみを含むポリシー固有のスキャンではなく、フル スキャンを実行することをお勧めします。
- Cisco Firepower Threat Defense (Cisco FTD 6.x & 7.x)
- Cisco ISE 2.x/3.x
- Microsoft SQL Server 2022 (Supported on Windows and Linux)
- ArubaOS Switch 16.x
- ArubaOS CX 10.x
- VMware Photon OS 4.x
- Amazon Linux 2023

追加情報については、[Authentication Technologies Matrix](#).

Red Hat OpenShift Container Platform 4.x on CoreOS Agent のサポート

ミドルウェアテクノロジーのサポートは、Red Hat OpenShift Container Platform 4.x for Linux CoreOS Agent を含むように拡張されました。

追加情報については、[Middleware Technologies Auto-discovered by Cloud Agents for PC](#).

対処された問題

このリリースから、次の問題が修正されています。

- QID が誤って特定の CVE に関連付けられ、実際にはそのようなエクスプロイトが利用できないのに、武器化されたエクスプロイトの存在を誤って示す問題を修正しました。このリリースから、正しくない CVE への参照を削除しました。修正された QID のリストについては、以下を参照してください。[QIDs Fixed to Remove Incorrect Exploit References](#).
- ユーザーがホームページで SCA アプリケーションを選択すると、Vulnerability Management アプリケーションにリダイレクトされる問題を修正しました。
- ポリシー リスト API がエラー コード 999 を返していた問題を修正しました。
- ポリシー評価が行き詰まっていたポリシー処理の問題を修正しました。
- コンプライアンス スキャン結果の PDF にタグ情報が含まれていない問題を修正しました。
- Host Detection API が 10 時間経過しても応答しない問題を修正しました。このリリースから、4 時間以内に応答がない場合、API は中止されます。テクニカル アカウント マネージャーまたは Qualys サポートに連絡して、要件に従って既定の実行時間を変更してください。デフォルトの時間は 4 時間です。
- Dynamic Serch list (悪用可能性と認証の種類) が、検索リストを保存または再度開いたときにリセットされる問題を修正しました。この問題は、悪用可能な大規模なセットを選択したために発生していました。これを修正するために、これらのフィルターの数値制限を悪用可能性の場合は 4000、認証の種類の場合は 500 に増やしました。さらに、最大文字数制限を超えたときに通知するエラー メッセージが表示されるようになりました。
- ユーザーが Windows EC2 クラウドエージェントを使用してスキャンする API 呼び出しを行うときに EC2 メタデータを受信しない問題を修正しました。CSV、PDF、HTML、および XML 形式のすべてのレポートに EC2 メタデータが含まれるようになりました。
- 認証が成功したにもかかわらず、VCenter 認証を使用した VMWare ESXi 認証レコードの詳細ページに、すべてのホストで「未試行」と表示される問題を修正しました。ユーザーは、スキャンおよび VMWare ESXi 認証レコードで認証データを表示できるようになりました。
- MAP スキャン結果の IP をアセット グループに追加する際、「以下に示す IP アドレスは現在このアカウントにないため処理できません。それらをアカウントに追加するか、アクションをキャンセルして再試行してください。」とメッセージが表示されませんでした。このメッセージが正しく表示されるようになりました。
- クラウドエージェントのレポートがスタックし、13%で完了しない問題を修正しました。
- ユーザーが API アクセスを非アクティブ化した後でも API 呼び出しを実行できる問題を修正しました。
- QDS スコアと重大度が CSV レポートでは使用できないが、XML レポートでは表示される問題を修正しました。
- 正しいパラメーターが設定されていても、スキャン後に修復チケットが生成されない問題を修正しました。
- ユーザーが IP で OT スキャンを起動できない問題を修正しました。

- 追跡方法 QAgent を持つ IP ネットワークでスキャンされたアセットでユーザーが問題に直面する問題を修正しました。Address Management から **Export ALL** を選択した場合に、ユーザー定義フィールドはエクスポートされませんでした。
- アクティビティログにユニットマネージャーがマネージャーとして断続的に表示される問題を修正しました。
- UTF-8 と互換性のない特殊文字が原因でレポートが中断され、エラーが発生する問題を修正しました。